



本郷の輝き

横浜市立本郷小学校
学校便り 12月号
令和2年11月30日

横浜市栄区中野町16-1 電話 891-6813

本中ジャージ変遷考

校長 福嶋圭輔



来年度から変更される新しい本中ジャージ(右)と体育着(左)、1年生考案のロゴデザイン(↓)



11月13日発行の「本郷中学校だより」に来年度から変更される本中ジャージの記事が掲載されていました。現ジャージに変更されたのは私が本郷中学校に勤務していた25年前(1996年)です。それまでのサイドに2本のラインが入った男女別色(男子濃紺、女子エンジ)から浅葱色で一部(肩と腿)に青のデザインが施された、当時としては最先端のものに変わりました。

一代前のサイドライン入りジャージが流行したのは1964年の東京オリンピック以降と考えられ、1970年前後に本中ジャージに採用されたと推察されます。つまり25年前後の周期でジャージが変わり「オリンピック開催も影響しているのでは」と想像が膨らみます。記事によると今回の改定は機能性の向上を目的に生徒総会で意見要望として取り上げられたことが契機となり検討され、ロゴデザインを生徒から募集するなど生徒の声を反映して実現に至ったとあります。

私の記憶では、25年前も同様に生徒総会で出た要望から生徒会体育委員会でデザイン案を検討し全校生徒へのアンケートを経て最終決定されました。候補には一般的なサックスブルーやワインレッドなど学校ジャージの人気色もあったのですが「この色が選ばれるとは」と、予想外だったことを覚えています。浅葱色は市内の中学校ジャージにはない珍しい色で遠目にも本中生を認識できました。昨年度本郷小学校に赴任した際、本郷小学校付近を登下校する本中生のジャージ姿に「あの時のジャージがまだ…」と一人感慨に浸りました。

戦後、新制中学校の発足以来75年、25年周期で変遷する本中ジャージに、それぞれの時代に応じながら生徒の意見を取り入れ、創り上げる学校教育のすばらしさを感じます。

このことは新型コロナウイルス感染症拡大に揺れる現在を学校や社会が乗り越える原動力となるものと確信しています。



25年前(1996年)
当時の新ジャージと旧ジャージが混在する体育祭の写真(↑)

学校の様子（本郷小学校ホームページ【校長室より】）

10月23日(金) 2年生遠足「しんえのしま水ぞくかんへ行こう」



本日2年生は、新江ノ島水族館へ遠足です。昼間はあいにくの天候となりましたが、朝の校庭集合からバス乗車までは雨に降られず出発できました。子どもたちは、クラゲについての体験学習や楽しいイルカショーと館内見学を通して、海の生き物の“すごい”ところをたくさん見つけました。また、感染症予防と見学マナーに気をつけてしっかり行動できました。

11月13日(金) 3年遠足「瀬上市民の森へ行こう」



本日3年生は遠足。朝8時30分、学校を出発し角田さんの畑を通過して池の下広場、いっしんどう広場までの行程を歩きました。貸切バスや電車などを利用する遠足が多い中、本来の遠足の楽しさや意義を感じられるものになりました。いっしんどう広場で昼食、クイズラリーで楽しんだあと、予定より少し早く学校へ帰着。往復で約14,000歩10kmを踏破しました。

往路では栄警察署スクールサポーターの細島さんが自転車で伴走。交通安全配慮にご協力をいただきました。ありがとうございました。

☆ 他にもたくさん本郷小学校の様子を随時ホームページに掲載しております。是非ご覧ください。 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongo/>